



「外為短期投資家動向調査」結果

<第45回調査>

2013年02月25日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2013年02月12日(火)13:00~2013年02月19日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。
今回の有効回答数は545件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

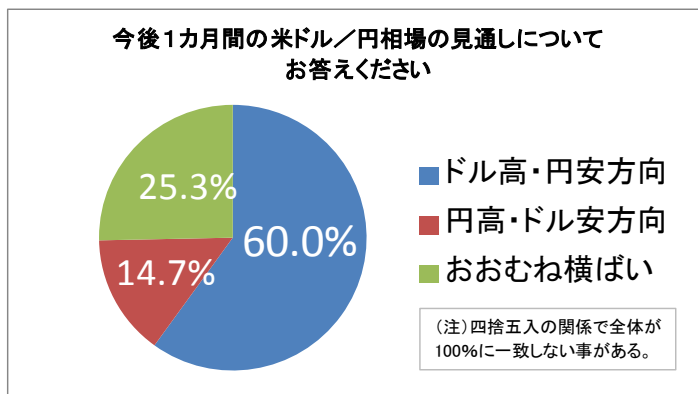
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第45回調査結果略報:「買い」で注目は米ドル/円が圧倒的多数】

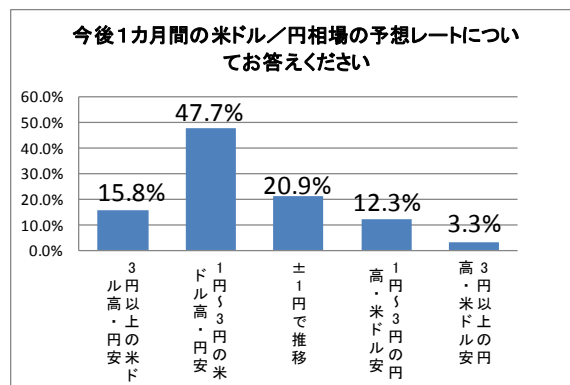
問1:今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が60.0%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は14.7%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+45.3%ポイントとなり、前月(+57.1ポイント)からプラス幅はやや縮小した。調査期間中のドル/円相場は2年9カ月ぶりの高値となる94.40円まで上昇したものの、その後は93円台を中心にもみ合う展開となり伸び悩んだ。それでも「予想DI」は過去の平均を上回る高水準を維持しており、FX投資家のドル強気・円弱気の姿勢に大きな変化はないと言って良いだろう。「おおむね横ばい」と答えた割合が前月(15.7%)から10%ポイントほど上昇している点と、「円高・ドル安方向」と答えた割合が前月(13.6%)からほぼ横ばいとなった点から見ても、上昇ペースは鈍るもののドル高・円安基調に変化はないと見ているFX投資家が多い事が窺える。 ※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2:今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円のドル高・円安」が47.7%と最も多く、次いで「±1円で推移」が20.9%、「3円以上のドル高・円安」が15.8%、「1円～3円の円高・ドル安」が12.3%、「3円以上の円高・ドル安」が3.3%の順となった。前月に続き、 Histogramの形状は大きくドル高・円安側に傾いており、問1の結果と整合的である。6割以上の回答者が94円台から96円台(調査期間中の終値平均93.44円から推計)への上昇を予想した事になり、3月中にも2月12日に付けた2年9カ月ぶり高値(94.40円)を更新すると見ている事になる。調査期間中のドル/円相場が伸び悩みながらも下値の堅さを見せた背景には、こうしたFX投資家のドル強気・円弱気姿勢があると考える事もできよう。

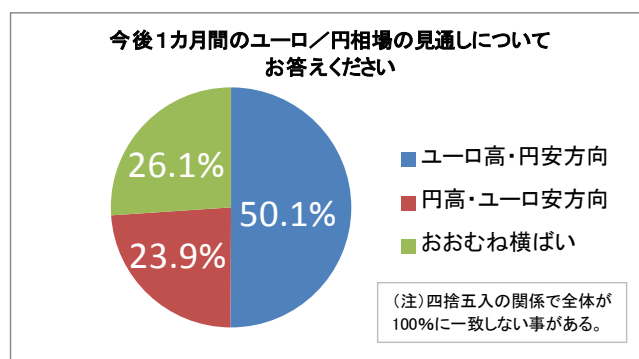


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

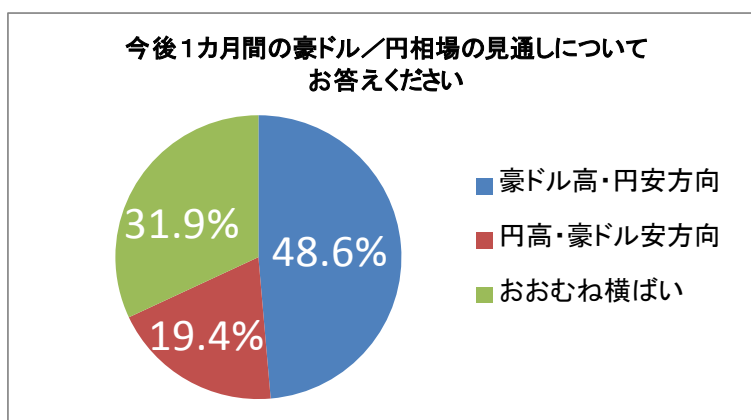
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が50.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が23.9%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は+26.2%ポイントとなり、調査開始以来の最高水準となった前回(+43.1%ポイント)からプラス幅が縮小した。調査期間中のユーロ/円相場は126.94円から122.90円まで軟化。その後は125円台に値を戻したものの上値は重い展開となった。伊総選挙を間近に控え、反緊縮派と見られているベルルスコーニ元首相が支持率を伸ばしている事がユーロの重石となったようだ。選挙結果次第では債務問題が再燃しかねないとの懸念などを背景に一部のFX投資家がユーロ高・円安予想を修正したものと思われる。 ※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が48.6%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は19.4%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+29.2%ポイントとなり、9カ月連続で豪ドル強気・円弱気姿勢を維持したもののプラス幅は5カ月ぶりに縮小した。調査期間中の豪ドル/円相場は95~96円台という狭いレンジで推移し、この通貨ペアとしては珍しく小動きとなった。「相場見通し」については、「おおむね横ばい」と答えた割合がドル/円やユーロ/円に比べて高いのが特徴的だ。豪ドル/円相場が、約5年半ぶりの高値(2月5日 97.40円)を付けた後に伸び悩んだことから、FX投資家の豪ドル強気・円弱気姿勢も後退したようだ。 ※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

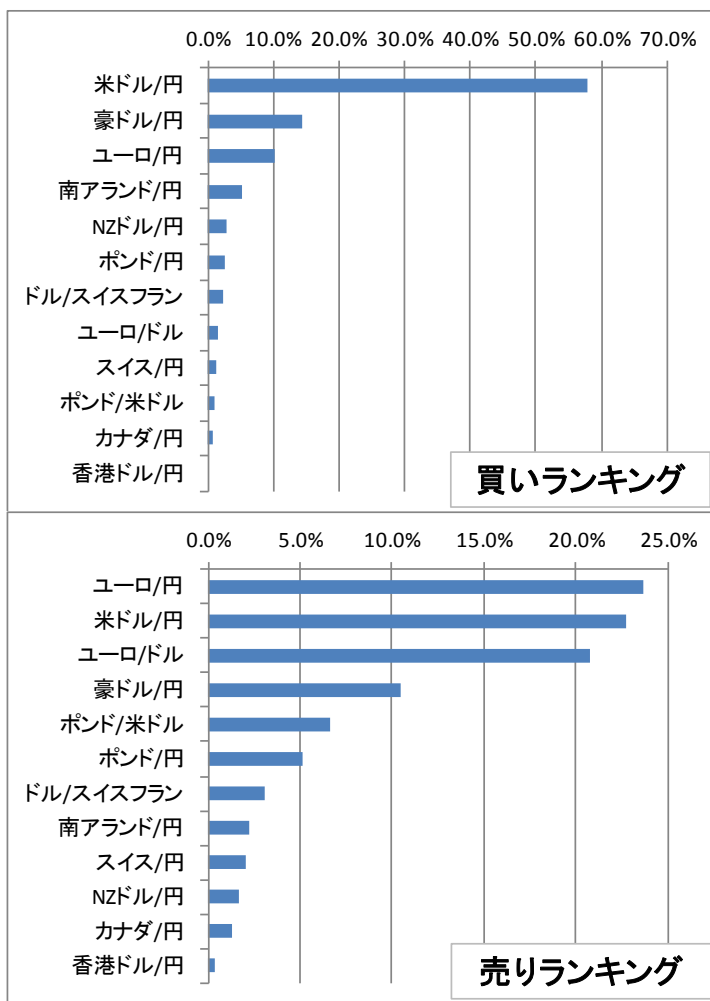


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(57.8%)、2位豪ドル/円(14.3%)、3位ユーロ/円(10.3%)、4位南アランド/円(5.1%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ユーロ/円(23.7%)、2位米ドル/円(22.8%)、3位ユーロ/ドル(20.7%)、4位豪ドル/円(10.5%)となった。「買い」で最も注目を集めた米ドル/円は2位以下を圧倒する支持を集めるとともに前回調査(56.5%)を上回り、過去最高の回答割合となった。2位の豪ドル/円や3位のユーロ/円に比べ、「予想DI」のプラス幅が最も大きい事と考え合わせても、FX投資家の関心が円相場のベンチマーク銘柄とも言える米ドル/円に集中している事がわかる。なお、米ドル/円は「売り」で注目の通貨ペアでも、ユーロ/円に1位の座を譲ったとは言え2位に入っている。一部のFX投資家は、いずれかのタイミングで訪れるであろう米ドル/円の反落局面を窺い、逆張りのなドル売り・円買いを仕掛ける時期を探っていると見られるが、そうした思惑も含めて米ドル/円の注目度の高さを表していると言って良いだろう。

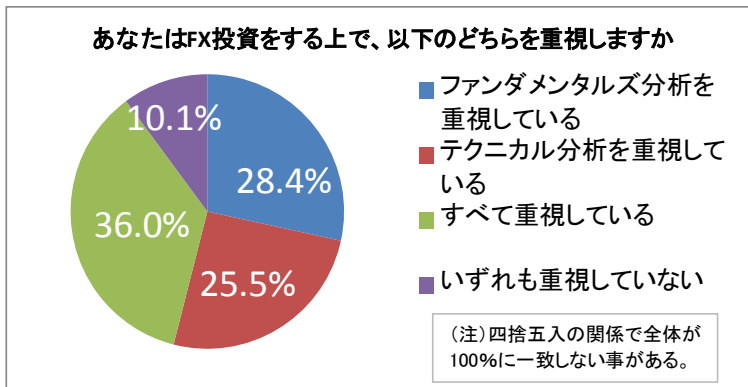


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

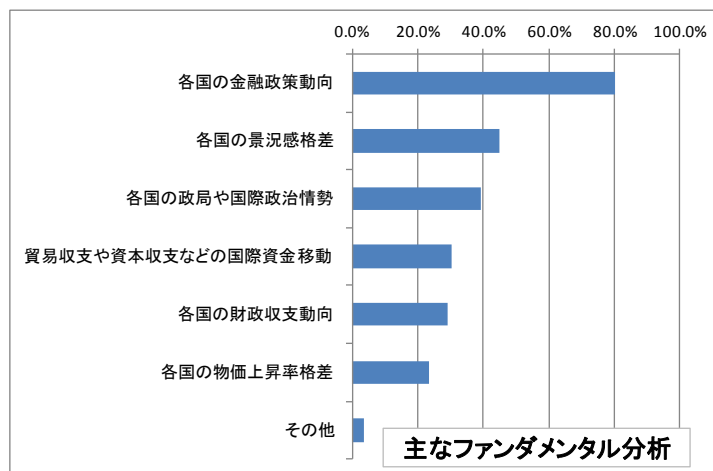
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が28.4%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が25.5%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が36.0%と引き続き最も多かった。なお、ファンダメンタルズ重視派の割合がテクニカル重視派を上回るの7カ月ぶりである。昨今の米ドル/円相場は、100日や200日といった中期的な移動平均線からの上方乖離がかつてないほど大幅に進むなど、テクニカル重視では上昇相場の波に乗り損なう場面があったものと推測される。こうした影響が回答結果に表れたのではないだろうか。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか? (いくつでも)

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(80.0%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(45.1%)」、「各国の政局や国際政治情勢(39.4%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(30.5%)」、「各国の財政収支動向(29.3%)」、「各国の物価上昇率格差(23.4%)」の順に続いた。「各国の金融政策動向」が最も回答割合を集めた点は変わらないが「各国の政局や国際政治情勢」の回答割合が前月の26.8%から10%ポイント以上増加した点が特徴的だ。調査期間中に開催されたG20財務相・中銀総裁会議で「アベノミクス」による円安の是非に焦点が当たった事が影響したと見られ、FX投資家が時事ネタに敏感に反応する様子が示されていると言えよう。

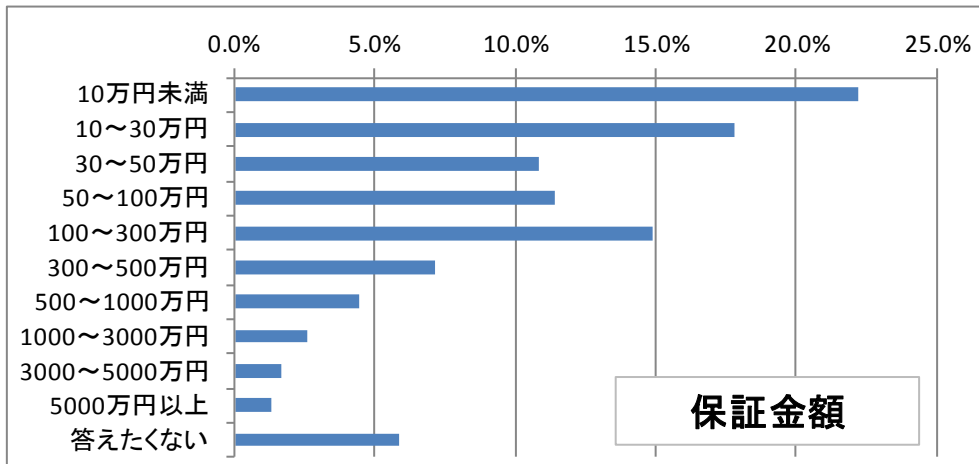


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

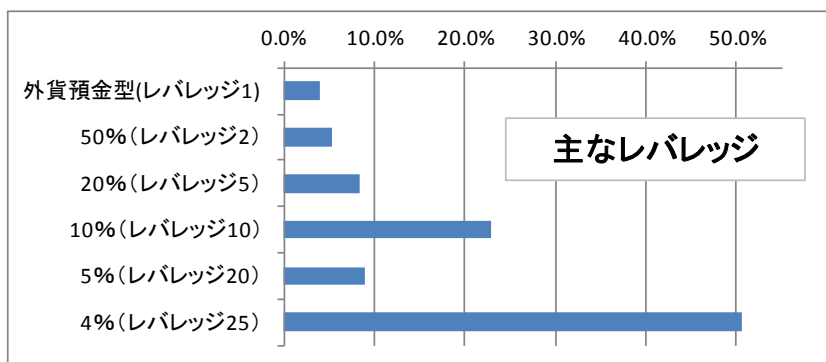
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が22.2%と最も多く、以下「10～30万円(17.8%)」、「100～300万円(14.9%)」、「50～100万円(11.4%)」、「30～50万円(10.8%)」と続いた。100万円以下の保証金で取引を行っているとした合算割合が62.2%と前回調査の68.9%から減少した一方で、100万円以上の保証金と答えた合算割合は27.2%から32.1%に増加している。小額の保証金で取引が可能というFXの特性を生かすFX投資家が引き続き多数派ではあるものの、足元のFX取引高の大幅な増加を同時に鑑みれば(金融先物取引業協会の調べによると2013年1月の店頭FX各社の合計出来高は過去最高の345兆円に達した)、高額保証金の取引が増えている可能性がある。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が50.6%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が22.9%、「20%(レバレッジ5)」が9.0%と続き、以下「5%(レバレッジ20)」が8.3%、「50%(レバレッジ2)」が5.3%と続いた。最大レバレッジである4%(25倍)を主に活用する向きが2カ月ぶりに回答者の半数を超えており、FX投資家の積極的な売買姿勢が窺える結果となった。なお、今回調査に回答を寄せたFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は17.3倍と、前月の16.6倍から上昇しており、こちらも2カ月ぶりの高水準となった。

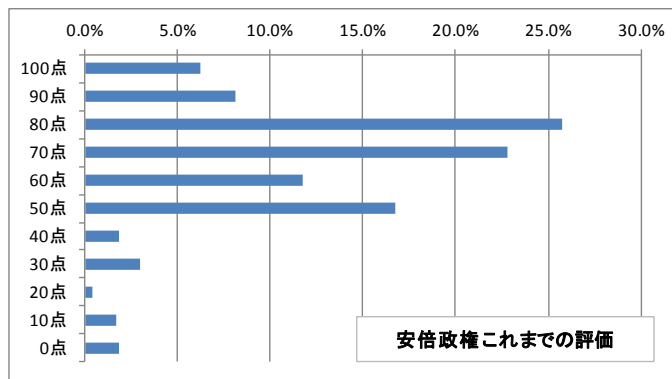


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

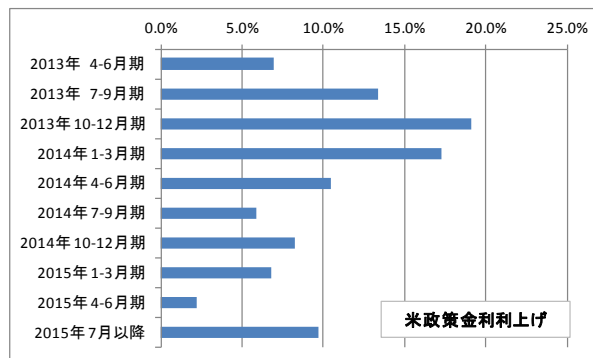
問10: 2012年12月の安倍政権が発足以降、これまでの経済政策を評価するならば、何点でしょうか(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、2012年12月の安倍政権が発足以降、これまでの経済政策を評価するならば、何点でしょうか(ひとつだけ)と尋ねたところ、下表のような結果が得られた。平均点は67.3点となったが、80点以上の高評価を与えた合算割合も40.1%に達している。また、「評価のポイント」について自由記述形式で尋ねたところ、80点以上の高評価を与えた向きからは圧倒的に「円安・株高」を挙げる声が多く、「経済立て直しへの強い意志を感じる」との指摘もあった。また、50点以下の辛口評価を下した向きからは「期待を先行させただけでまだ結果はなにも出ていない」、「真価が問われるのはこれから」などとして、現段階での高評価は出来ないが、今後の政策実行を見守りたいとする趣旨の回答があった一方で、「政策の実現は不可能、問題を先送りしただけ」、「インフレに火が付けば日本は崩壊する」などとする批判の声もあがっていた。



問11: 米連邦準備制度理事会(FRB)による、政策金利の引き上げの時期は？(ひとつだけ)

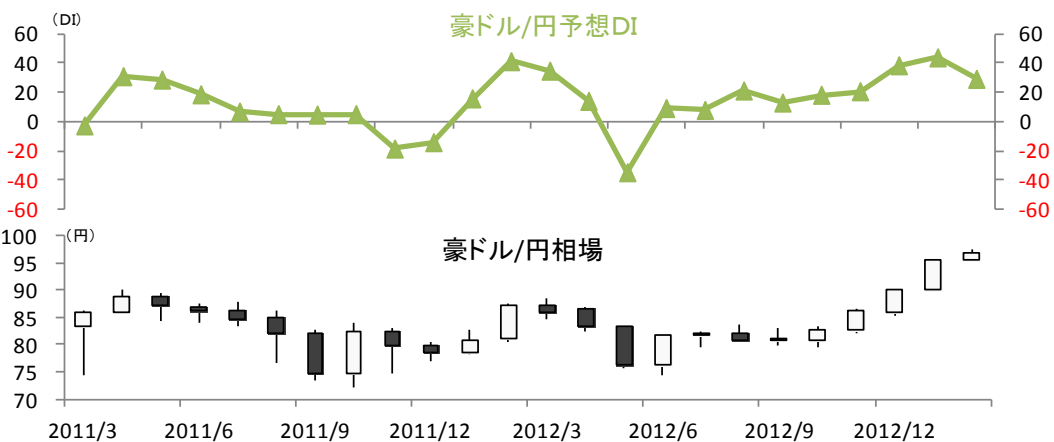
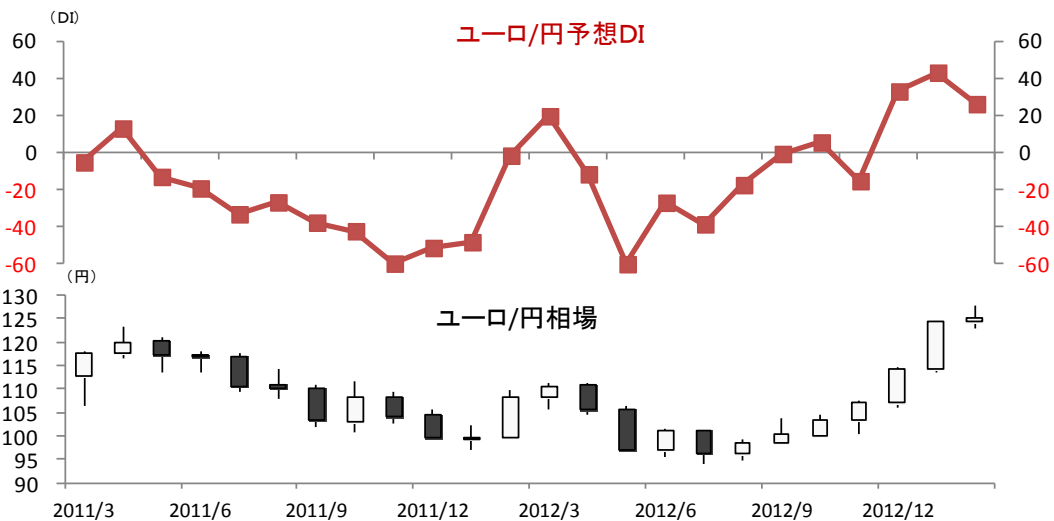
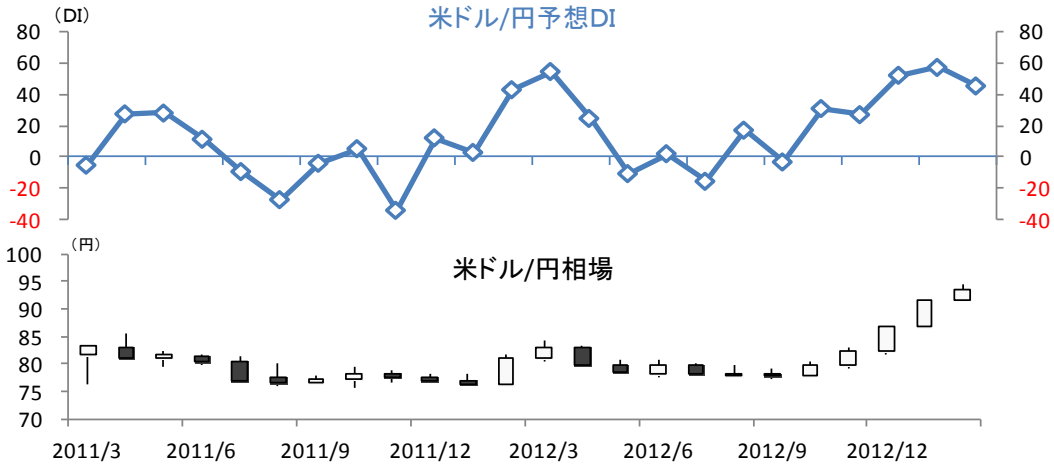
今月のもうひとつの特別質問項目として、米連邦準備制度理事会(FRB)による、政策金利の引き上げの時期は？(ひとつだけ)と尋ねたところ、「2013年10-12月期」と答えた割合が19.1%と最も多く、順に「2014年1-3月期(17.2%)」、「2013年7-9月期(13.4%)」、「2014年4-6月期(10.5%)」と続いた。回答者の半数以上(合算割合で56.7%)が今後約1年以内(2014年3月まで)の利上げを予想している事になる。米国債利回りなどの織り込みよりもかなり早い段階での利上げを見込んでいる事になり、「利上げ」と「量的緩和の解除」を混同しているのではないかと疑念もあろうが、昨年2月に実施した第33回調査で同じ質問をした際に「2012年内」と答えた向きが14.7%に上った点から見ても、FX投資家は米国景気に楽観見通しを持つ傾向が強いと言えるだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第45回目となりました。調査開始から3年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円			
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI	
2011年	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7	
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0	
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7	
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6	
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8	
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0	
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7	
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0	
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6	
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2	
	2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
		2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
3月		67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8	
4月		45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1	
5月		25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8	
6月		30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2	
7月		18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9	
8月		36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2	
9月		27.9	31.0	-3.2	38.7	39.2	-0.6	40.2	27.2	13.0	
10月		44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.5	24.2	18.3	
11月		48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7	
12月		69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5	
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9	
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2	

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com